

平成24年度
安心生活創造事業
全国会議資料
【第2分冊】

平成24年11月5日（月）

厚生労働省社会・援護局地域福祉課

目次

・名簿	1
・分科会進行メモ	3
・第1分科会	5
・第2分科会	27
・第3分科会	47
・第4分科会	63
・第5分科会	79
・第6分科会	99
・第7分科会	125
・第8分科会	141
・第9分科会	163
・第10分科会	177
・第11分科会	195
・【参考】	217

安心生活創造事業実施内容一覧表

平成24年度安心生活創造事業 全国会議 人口規模・テーマ別分科会名簿

都道府県	市町村	所属	役職	氏名	司会	記録	分科会テーマ	分科会
福井県	池田町	保健福祉課	課長補佐	飯田 ひろみ			部局内の連携の仕方 及び関係機関、民間事業者との連携の仕方	1
北海道	福島町	保健福祉課	課長補佐	鎌田 一志				
宮崎県	美郷町	社会福祉協議会	局長	鎌田 雄二郎	○			
岩手県	西和賀町	保健福祉課	課長	刈田 哲彦				
高知県	中土佐町	健康福祉課	主幹	八木 伴				
香川県	琴平町	社会福祉協議会	事務局長	越智 和子				
岡山県	美咲町	健康増進課	主事	中谷 公一		▲		
石川県	かほく市	市民部健康福祉課	係長	墨谷 聖美				
千葉県	鴨川市	健康推進課福祉総合相談センター	主任保健師	田中 和代			部局内の連携の仕方及び関係機関、民間事業者との連携の仕方	2
広島県	庄原市	社会福祉協議会		二上 明				
大分県	臼杵市	福祉保健部福祉課	主査	藤澤 貴宏		▲		
鹿児島県	日置市	福祉課	参事	今給黎 誠				
栃木県	大田原市	社会福祉協議会	係長	永森 英明				
三重県	名張市	健康福祉部地域包括支援センター	室員	大浜 隆博				
滋賀県	甲賀市	健康福祉部社会福祉課	課長補佐	本多 美智代	○			
滋賀県	甲賀市	社会福祉協議会地域活動支援課	課長	湯次 耕大				
兵庫県	芦屋市	保健福祉部地域福祉課	課長	長岡 良徳	○		部局内の連携の仕方及び関係機関、民間事業者との連携の仕方	3
栃木県	鹿沼市	保健福祉部厚生課	課長補佐	大谷 薫				
北海道	旭川市	福祉保険部保護第1課	次長	佐々木 尊彦				
大阪府	豊中市	社会福祉協議会	次長兼室長	勝部 麗子				
兵庫県	尼崎市	健康福祉局福祉部福祉課	主事	古川 孝啓		▲		
東京都	大田区	福祉部福祉管理課	係長	藤波 純子				
千葉県	千葉市	高齢福祉課	主査	湯浅 美砂緒				
山形県	飯豊町	健康福祉課	所長補佐	志田 薫子				
北海道	本別町	総合ケアセンター高齢者福祉担当	主査	木南 孝幸	○		対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容 及び基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方	4
鳥取県	南部町	福祉事務所	所長	頼田 光正				
長野県	軽井沢町	社会福祉協議会	係長	佐藤 友晴		▲		
石川県	かほく市	市民部健康福祉課	課長補佐	福原 勇夫				
大分県	臼杵市	総務部コミュニティ防災課	主任	祖父江 伸矢				
鹿児島県	南九州市	社会福祉協議会	知覧支所長	泊 浩一郎			対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容 及び基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方	5
滋賀県	米原市	社会福祉協議会	主任	村山 善信				
秋田県	湯沢市	福祉保健部福祉課	参事兼班長	八柳 長門				
愛知県	長久手市	福祉部福祉課	課長	中西 直起				
栃木県	大田原市	保健福祉部高齢者幸福課	主査	大高 純一		▲		
福岡県	春日市	健康福祉部高齢課高齢者支援担当	統括係長	武末 竜久	○			
兵庫県	宝塚市	社会福祉協議会地区支援課	係長	前園 真由美				
北海道	札幌市	保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課	係長	鈴木 武				
北海道	東川町	社会福祉協議会	事務局長	坂井 直志			個人情報の 取扱い方	6
高知県	中土佐町	社会福祉協議会	主事	原 美晴				
山形県	飯豊町	健康福祉課	課長	宇津木 耕一				
岡山県	美咲町	社会福祉協議会	チーフ	丸本 幸子		▲		
京都府	南丹市	社会福祉協議会地域福祉事業課	係長	松尾 勇也				
千葉県	匝瑳市	福祉課	主査	伊藤 弘一				
滋賀県	米原市	社会福祉協議会	課長	吉田 兼次				
富山県	氷見市	社会福祉協議会	部長	森脇 俊二	○			
神奈川県	逗子市	逗子市福祉部社会福祉課	係長	西平 貴代美				

都道府県	市町村	所属	役職	氏名	司会	記録	分科会テーマ	分科会
福岡県	春日市	社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係		岩下 陽子		▲	個人情報の取扱い方	7
山形県	酒田市	福祉課地域福祉係	係長	松永 隆				
兵庫県	宝塚市	いきがい福祉課	課長	赤井 稔	○			
北海道	旭川市	福祉保険部福祉保険課	次長	天野 裕次				
大阪府	豊中市	健康福祉部 地域福祉室	次長兼室長	大東 幹彦				
新潟県	新潟市	新潟市福祉総務課	主査	榎本 義和				
埼玉県	さいたま市	保健福祉局福祉部福祉総務課	参事兼課長	藤原 陽一郎				
鳥取県	日吉津村	福祉保健課	主事	高崎 珠理恵				
宮崎県	美郷町	安心生活支援センター(社会福祉協議会)	主任	赤木 由美子			訪問員の養成 ノウハウ	8
長野県	軽井沢町	保健福祉課	課長補佐	堀川 親雄	○			
京都府	南丹市	市民福祉部高齢福祉課	課長補佐	四方 厚司				
栃木県	壬生町	民生部健康福祉課	係長	神永 喜市				
愛知県	長久手市	福祉部福祉課	係長	浅井 俊光				
奈良県	天理市	(社)天寿会 ひびき在宅介護支援センター ひびき在宅介護支援センター滝本	理事長	林 芳繁				
栃木県	鹿沼市	保健福祉部厚生課	主査	池澤 美紀子		▲		
滋賀県	大津市	社会福祉協議会	次長	寺田 龍志				
大阪府	豊中市	社会福祉協議会	係長	佐藤 千佳		▲	訪問員の養成 ノウハウ	9
兵庫県	尼崎市	社会福祉協議会地域福祉課	課長	内藤 神彦	○			
愛媛県	松山市	保健福祉部高齢福祉課	主任	清水 太郎				
埼玉県	さいたま市	保健福祉局福祉部福祉総務課	係長	金子 博臣				
神奈川県	川崎市	健康福祉局高齢者在宅サービス課	主任	神田 正顕				
北海道	福島町	社会福祉協議会	事務局長	山田 正宏	○			
宮崎県	美郷町	健康福祉課	主査	桑津 紀大				
岩手県	西和賀町	社会福祉協議会	事務局長	高橋 純一				
北海道	東川町	保健福祉課	課長	竹部 隆			自主財源確保の ためのアイデア	10
北海道	本別町	社会福祉協議会地域福祉活動推進部	主任	中島 由昌		▲		
香川県	琴平町	福祉課	課長補佐	佐藤 任司				
千葉県	鴨川市	社会福祉協議会	社会福祉士	高梨 美代子				
鹿児島県	南九州市	福祉課	主任主査	西 範博				
千葉県	匝瑳市	高齢者支援課	副主幹	鎌形 健				
広島県	庄原市	社会福祉課	主任主事	佐々木 敏也				
秋田県	湯沢市	社会福祉協議会	主事	後藤 久司				
富山県	氷見市	市民部福祉課	主幹	竹越 善和			自主財源確保の ためのアイデア	11
奈良県	天理市	(社)天寿会 ひびき在宅介護支援センター ひびき在宅介護支援センター滝本	課長	松山 大輔				
三重県	名張市	健康福祉部健康福祉政策室	副室長	吉岡 恵子	○			
兵庫県	芦屋市	社会福祉協議会	主任	宮平 太		▲		
滋賀県	大津市	福祉子ども部福祉政策課	主任	岡田 ふく子				
神奈川県	川崎市	健康福祉局高齢者在宅サービス課	課長補佐	井本 勝巳				

分科会進行メモ

【人口規模別分科会（11月5日15:15～16:45/90分）】

【分科会テーマ】

グループ1～3	部局内の連携の仕方及び関係機関、民間事業者との連携の仕方
グループ4, 5	対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容 及び基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方
グループ6, 7	個人情報の取り扱い方
グループ8, 9	見守りをするための支援をする人（訪問員等）の養成のノウハウ
グループ10, 11	自主財源確保のためのアイデア

15:15～15:20 分科会の進め方について（厚生労働省から説明）

15:20～16:30 **各市町村から取組状況の紹介（40分程度）**

○ 司会者、記録者確認（厚労省指名）

司会者の進行により、事前アンケートを元に各参加者から

- ① 自己紹介
- ② 重点的に取り組んでいるところ（取り組む予定のところ）
- ③ 事業実施過程で実行が難しいところ、苦勞していること、その理由や分析、考えている解決策等
- ④ 他市町村に聞いてみたいこと

などを発表

一参加者発表の都度、質疑応答や助言等を行う

設定テーマによる議論（30分程度）

各市町村からの発表が一巡したところで、各グループで設定しているテーマを中心に（焦点をあてて）議論を深める。

設定されたテーマでは議論が深まらない場合は、前半の市町村からの取組等の発表や質疑応答で焦点のあたっていたテーマ、興味、関心の高かったテーマについて議論を深めるなど、他のテーマについて議論しても可。継続市町村等からのアドバイスなどの意見交換の時間にしてもよい。

16:30～16:45 **発表内容のまとめ（15分程度）**

今までの議論、意見を元に、全体で共有したらよいと思われる情報、是非PRしておきたいものなどを整理、発表者を決定

16:45～17:15 **各分科会からの発表（各分科会2, 3分程度×10～15グループ）**

【地域ブロック別分科会（11月5日17:15～17:45/30分）】

- 17:15～17:45
- ・主に顔合わせと自己紹介（名刺交換等）
 - ・同事業実施における売り、困っていることなどの紹介
 - ・ブロック会議や各自治体相互の連携、協力などについて話し合い
 - ・幹事市町村や次回ブロック会議の日程調整など

【第1分科会】

テーマ：部局内の連携の仕方及び関係機関、
民間事業者との連携の仕方

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	福井県	市町村名	池田町	所属ブロック	中部ブロック
人口(H24.4.1 現在)	世帯数(H24.4.1 現在)	高齢化率(H24.4.1 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
3,145	1,242	39.49	—		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
6.7	△	
9	△	都会や他市町と同じような画一的な調査では本当の住民ニーズは把握できないこと人口規模や、過去に行った実験事業の検証結果からも見守り・生活支援サービスが有償であっても事業原則3を考え、採算をとるのはかなり難しい。しかし、池田町で生活するうえでの個別課題は多様でその解決策を望む声は大きく、町としてもそれらを考慮したサービスの構築を目指している。これらの課題を踏まえた事業の企画構想段階において手間取っている。
10	△	高齢化、人口規模から新たな人材の発掘に難しさを感じている。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

池田町全体及び個別の地域課題を少しでも補う支援サービスの構築

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

カ. 個人情報の取り扱い方

キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

福井県池田町においては都会で想定しているような孤独死や近年発生している同居する世帯全員が死亡してしまうような事案は発生してはいない。顔の見える関係がまだまだ残っている地域であるといえるかもしれない。しかし、山の中の小さな町に住むには、都会にはない生活不安と課題があり、従来であればそれを地域で解決し見守ることができたが、家族の意識低下や過疎化・高齢化により課題を抱える方に対し、対処しきれなくなっているところもある。また、障害者や、子育て世代のニーズ把握が対象者が少ないためおざなりになっているところもいめない。これらの池田町における課題を少しでも克服できるような事業としたい。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

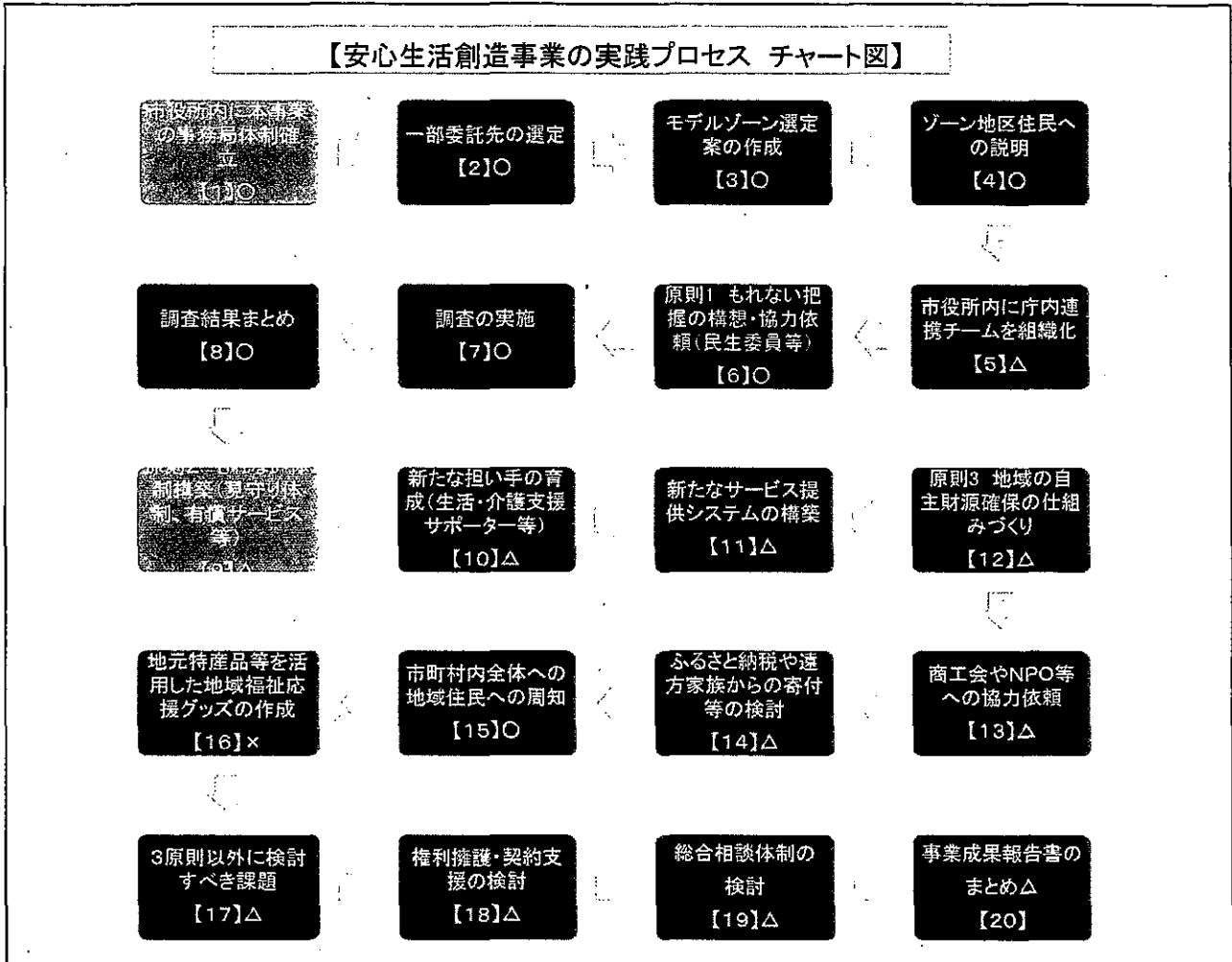
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	北海道	市町村名	福島町	所属ブロック	北海道・東北
人口(H24.9.末 現在)	世帯数(H24.9.末.現在)		高齢化率(H24.9.末 現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
4,954	2,327		38.31	4,954	

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
【5】	△	3年間で構築した調査台帳などをもとに、H24～25年の間で組織化を図る。
【9】～【14】	△	【9】については、有償サービスについては利用者がなかった。【10】については、再度H24～25年度の間で再研修会を実施し養成したい。【11】～【14】については3年間で協議したが構築までには至らなかったため、H24～25の間で再度検討していきたい。
【16】	×	ほかの事業の進行をふまえながら、H24～25年の間で応援グッズを作成したい

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

対象者の見守り台帳の作成及びリアルタイムな調査。並びに見守りキットの配布活用。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。（複数回答可）

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

市町村の規模に応じてゾーン設定をしたほうが良いと思う。

イ. 部局内の連携の仕方

安心創造事業の周知の徹底並びに重要性についてを考慮した協議が必要。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

安心創造事業の周知の徹底並びに重要性についてを考慮した協議が必要。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

聞き取り調査の重要性、並びに民生委員等との連携が必要と考える。

カ. 個人情報の取り扱い方

キ. 訪問員の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

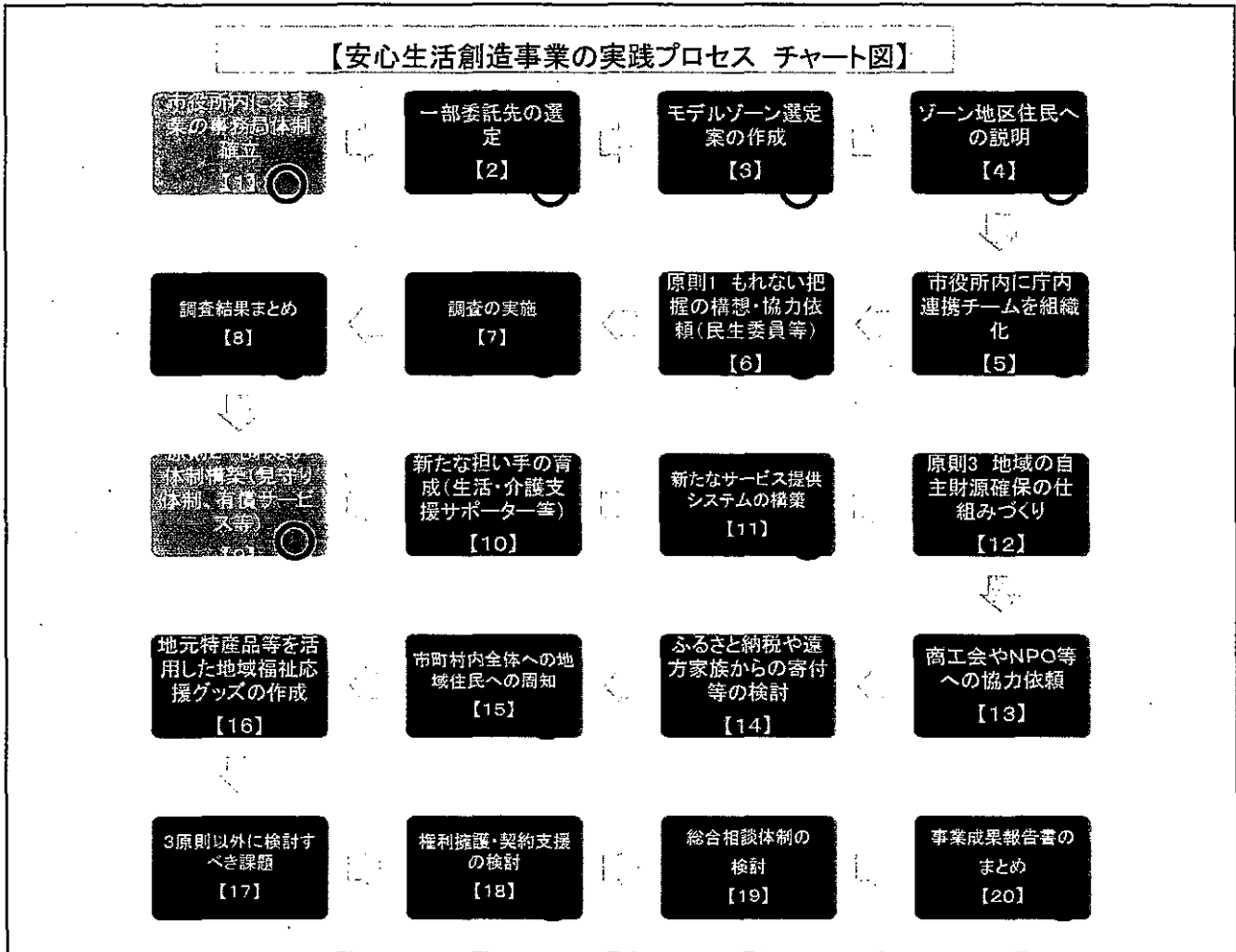
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	宮崎県	市町村名	美郷町	所属ブロック	九州
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H23.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
5,952	2,496	43.1	5,952		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
12	×	平成23年度末から運用を開始したメール配信事業により、町内独居高齢者の町外に住む身内に対しふるさと納税や社協への寄付金をPR予定。 ※実績なし
13	△	買い物難民対策ということで商工会と連携し「買い物代行業業」や「安否確認を兼ねた御用聞き事業」を試行したが、需要や手数料収入が少ないため一部地域の継続にとどまっている。
14	△	平成23年度末から運用を開始したメール配信事業により、町内独居高齢者の町外に住む身内に対しふるさと納税や社協への寄付金をPR予定。 ※実績なし
16	×	実施なし

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

・見守り対象者の情報(氏名、生年月日、訪問事情報等)を関係者(行政や社協、地域包括職員、民生委員等)で共有できる仕組みづくり。
・洩れない仕組みづくりとして、民生委員との協働により「見守りカード作成」「気になる人を探せ」事業の実施。
・安心訪問員による定期訪問と関係者による定例会(情報共有、支援の具体化)の実施。
・見守り員制度の創設。
・メールを利用した情報発信の仕組みづくり。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

自治体の規模が小さいため全町を対象とした。

イ. 部局内の連携の仕方

安心定例会を各区(旧村3地区)で月1回開催し、訪問時の状況等を基に包括的に連携できる体制を整えている。

※安心訪問員、地域包括支援センター、保健師、看護師長、行政担当で構成

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

関係職員(行政や社協、包括職員等)で情報を共有し、訪問時情報等の履歴を管理するために安心ネットシステムを構築した。これにより行政や社協等が組織の垣根を越えて情報を共有することが可能となり、効率的で洩れない支援づくりの体制が整えられた。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

平成21年7月～12月に65歳以上がいる世帯を対象に実施した。回収率90.5%となった。質問の項目としては、自宅で生活するうえで不安に思うことがあるか。楽しみや生きがいはあるか。福祉施策に望む事等。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

基盤支援対象者台帳については、美郷町安心ネットワークシステム内において作成。マップについては作成してない。(更新が困難であるため)

カ. 個人情報の取り扱い方

町個人情報保護条例に基づき、委託先(社協)に対し事業実施に最低限必要な情報を行政が提供している。また社協との委託契約に基づき、訪問員(社協職員)に守秘義務を課している。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

個人情報についての研修は実施したが、訪問については当初から手探り状態の中で、定例会や民生委員の意見を参考にしながら実施してきた。安心瓦版(情報誌)を作成、持参し信頼関係の醸成に努めた。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

平成23年度末から運用を開始したメール配信事業(町外に住む身内への月1回の近況報告)により、町外の身内に対しふるさと納税や社協への寄付金をPRする。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

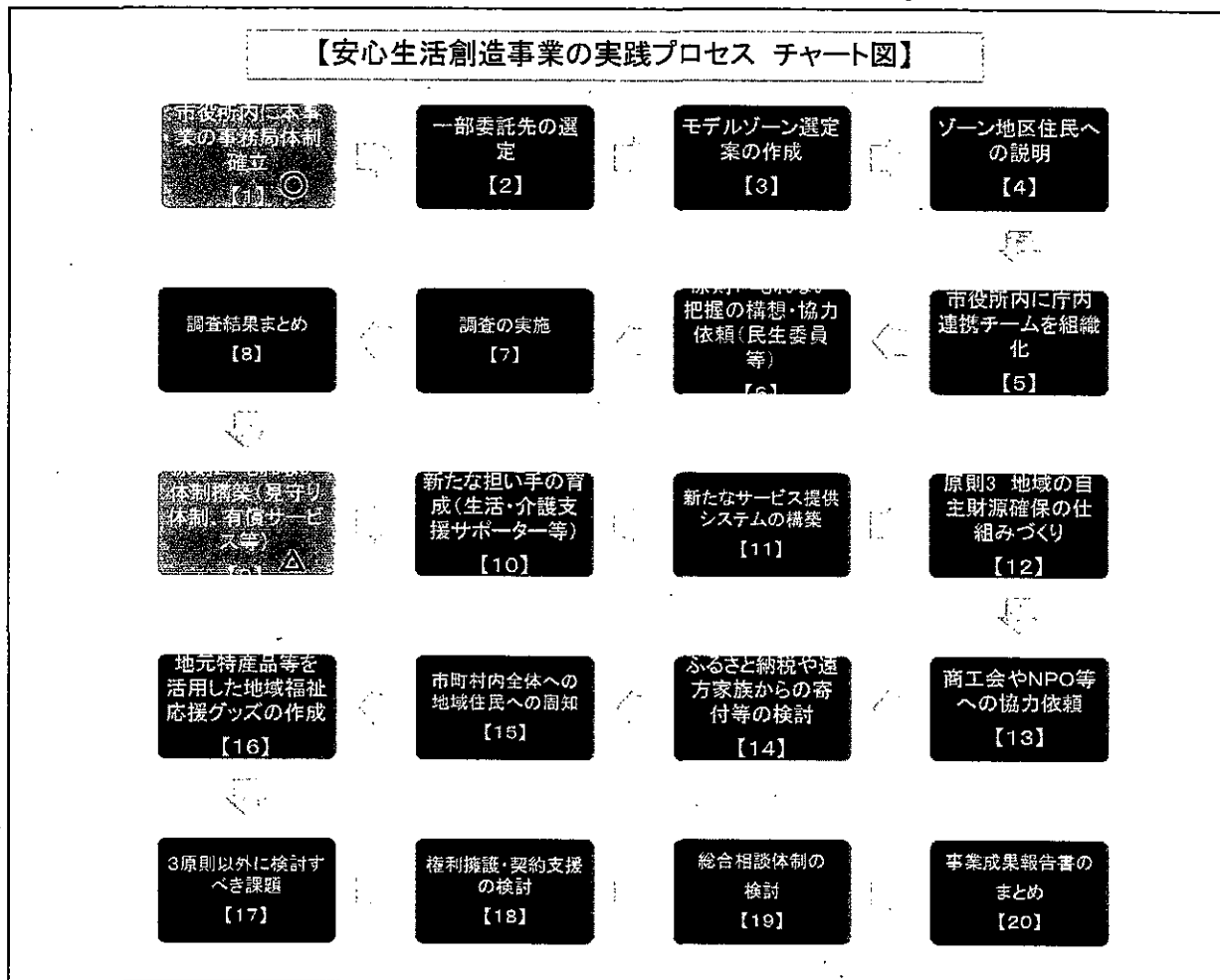
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	岩手県	市町村名	西和賀町	所属ブロック	北海道・東北
人口(H24. 9. 30現在)	世帯数(H24. 9.30現在)	高齢化率(H24. 9.30現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
6, 609	2, 442	42. 03	6, 609		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
5	△	役場内の組織として、健康づくりから高齢者福祉・障がい者福祉・地域福祉業務及び民生児童委員協議会事務局を保健福祉課で担当していることから、他課との連携は組織化しなかったが、必要に応じ包括支援センターとの連携を実施した。
9	△	地域で見守りの必要な方々の状況が明らかになってきているものの、過疎化や人口減により近隣の支援の在り方や取り組み方に不十分さが見られる。
10	△	生活介護サポーターなどの養成は進められているものの、恒常的に見守り活動を依頼するとなれば必然的に費用負担が生ずるが、地域的にお金を支払ってでも見守り支援を依頼するというにはなれない風潮がある。
12 14	×	合併前の市町村で積極的に展開していた「ふるさと温ったか募金」や「お誕生日ボランティア募金」などの復活を目論んだものの、市町村合併により意義に賛同してもらい意識の醸成や対象者の把握に手間取り、スムーズに進められない状況にある。
16	×	地域福祉応援グッズにするような品目が見つからず作成は行わなかった。
19	△	値域での生活を支えていくためには、多種多様の相談に応じる体制を整備するとともに、ワンストップで解決できるだけの力量を高める必要がある。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

買物支援「まごころ宅急便」の開発と普及、特に東日本大震災における大津波被災地での事業推進や関連する見守り体制の実践。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

本町は人口的には小規模な自治体であるものの、合併により地域的に広範囲になり、歴史的、文化的、そして高齢化の違いも散見されることから、町内の北部地域、中心地域(住宅密集地域)、比較的南部で特に超高齢化の進んだ「限界集落」と呼ばれる地域など意識的に区別しながら選定した。

イ. 部局内の連携の仕方

本町は、健康づくりから高齢者福祉・障がい者福祉・地域福祉・児童福祉及び民生児童委員協議会事務局を保健福祉課で担当しているため、他課との連携の必要が少ない状況であったが、介護保険の包括支援センターとの連携については必要に応じ行った。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

行政と社協、NPO及び大学等と連携を密に進めることができた。情報の共有をはじめ地区での懇談会などには合同で参加し、共に進める体制を絶えず取り合いながら進めた。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

アンケート等に関しては、文書への書き込みなどは依頼せず、可能な限り直接訪問しながら膝づめで聞き取り調査を実施することに心掛け、その結果、これまでにないような極めて有効な調査ができた。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

社協と民生委員の協働による台帳・マップ作成を行っており、一人暮らし高齢者・高齢者夫婦のみの世帯、日中独居高齢者世帯、障がい者等歩行困難者、認知症の疑いのある方等々、要援護者の緊急連絡先や住宅間取りなどを年2回(4/1・10/1付け)調査し、PC管理しながら一元管理している。

カ. 個人情報の取り扱い方

各種台帳やマップ作製に関しては、個人情報に関する承諾を得ている。災害時の要援護者情報について、町に提出する範囲は、個人情報の6項目に限定するように個人情報審議会によって取決めがなされている。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

以前実施したホームヘルパー2級養成講座修了者や生活介護サポーター、そして認知症サポーターなど町内で実施した講座修了者を対象に訪問員として協力いただくなど、自前の養成講座を活用する方針で進めた。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

寄付や募金というように漠然とした呼びかけではなかなか成果を見いだせないように思える。これからは、明確な事業の趣旨や目的を個別に且つ具体的に提示し、直接対象者から理解と賛同を得られるような取り組みをしなければ、自主財源の確保は難しいと考える。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

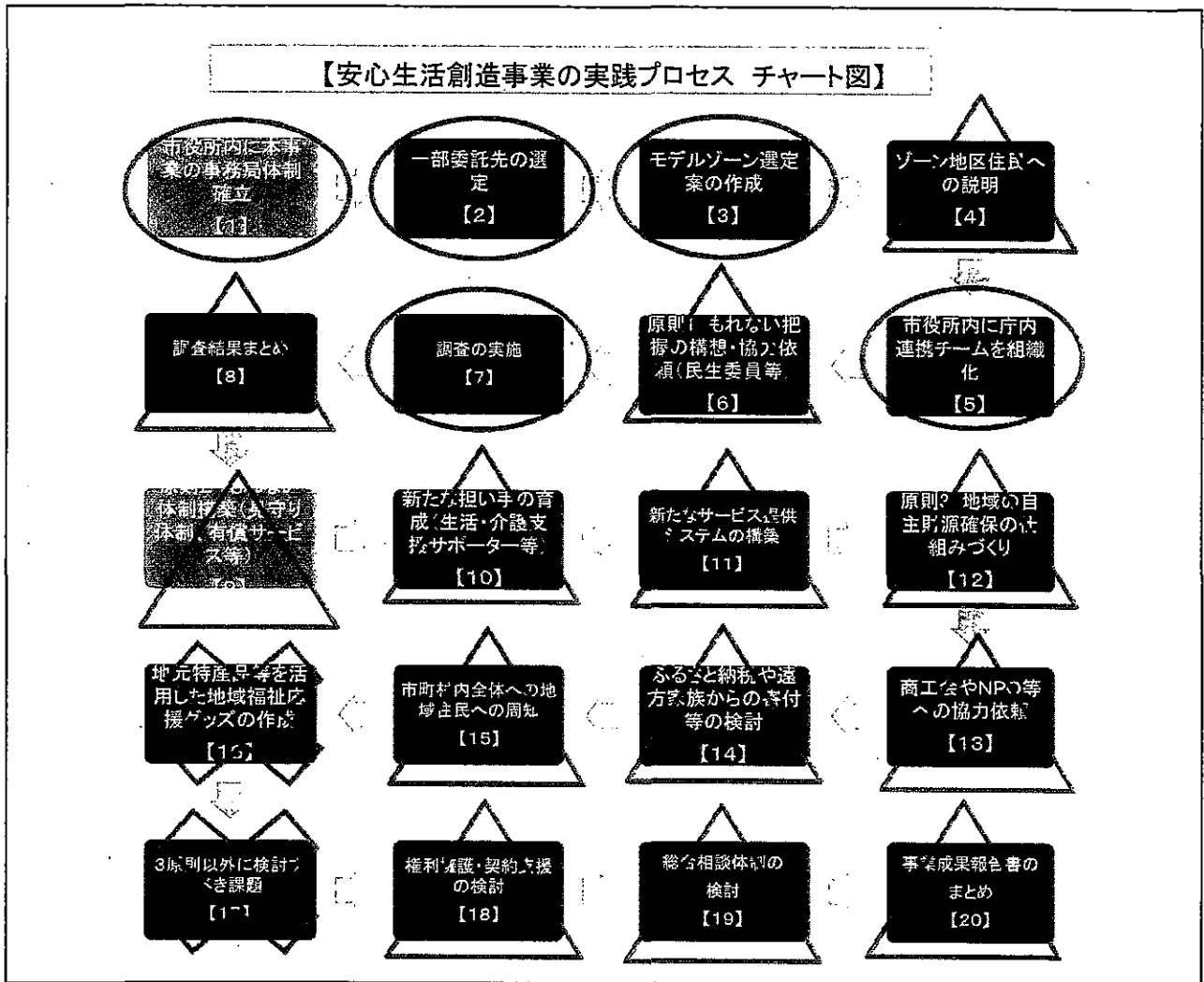
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	高知県	市町村名	中土佐町	所属ブロック	
人口(H24.3.31 現在)	世帯数(H24.3.31 現在)	高齢化率(H24.3.31 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
7,887	3,629	38.1	①1465人②1280人 ③317人④4969人		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
4	△	4つの地域を設定して4つとも同時進行をしているため、全地域でもれなく説明会の実施に至っていない。また地域福祉計画・活動計画と連動して進行させているので、説明はその内容に重点が置かれている。
6	△	各地域で実態把握の構想、手段が違っている。①つながる安心カードを通じた把握②つながりマップ作りを通じた把握③訪問活動や男のチカラみせますプロジェクトを通じた把握④訪問活動や地域住民どおしの繋がりを通じた把握である。それぞれの地域ごとに進捗のスピードは違っている。
8	△	調査実施に合わせ、まとめの作業を順次行っている。

9	△	4つの地域ごとに進行している。①「つながる安心カード」の普及活動をととして体制構築を目指した取り組み。②つながりマップ作りを通して浮かび上がったニーズがカバーされる体制構築。③④訪問活動から気づいた「気になる人」を見守り、生活支援ができる体制構築を目標にしている。既存の仕組み等をベースに体制を強化していく方向である。
10	△	①地域活動ができる人材発見、育成のための活動に4つの地域で取り組む。 ②将来の新たな担い手の育成のために、ジュニアボランティア育成に取り組む計画。
11	△	9(体制構築)のための動きと連動させ協議する予定。
12	△	地域福祉計画の内容には盛り込まれていない要素のため、この項目のみ取り出して検討をしていく予定。
13	△	12(自主財源)のプロセスについての協議の過程で検討をする予定。
14	△	12(自主財源)のプロセスについての協議の過程で検討をする予定。
15	△	4つの地域ごとの独自の財源を検討する方向であるため、周知方法も地域に合わせて検討していく。
16	×	現在のところ検討課題として取り上げられていない。
17	×	三原則以外の検討課題に気づいていない。
18	△	平成25年度から町社協が日常生活援助サービスの実施主体になるので、それに合わせて権利擁護、契約支援の検討も行うが、現在は職員の研修段階である。
19	△	中土佐型地域包括支援ネットワークシステムづくりに取り組む方向である。現在はまだ協議段階である。
20	△	地域福祉計画・活動計画の進行管理にあわせ安心生活創造事業の記録も作成し、事業成果まとめに活用できるように記録シート内容を工夫している。(日本福祉大学の協力を得ている)

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

- ①地域福祉計画・活動計画で設定した町内の4つの地域ごとに取り組む地域活動を通して実態・(ニーズ)把握を行い、基盤支援を必要とする人がもれなくカバーされる体制を作る。
②地域福祉計画・地域福祉活動計画の進行管理と連動した活動を展開する。
③安心生活創造事業の実施によりできた地域の仕組みを事業終了後も継続、強化できる体制を作る。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ、その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

① 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

② 個人情報の取り扱い方

③ 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

⑥ 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

--

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

会議の日程はできるだけ早く情報提供をお願いいたします。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	香川県	市町村名	琴平町	所属ブロック	中四国ブロック
人口(H24.10.1 現在)	世帯数(H24.10.1 現在)	高齢化率(H24.10.1 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
9,967	4,331	34.02	9,967		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
10	△	自治会や民生委員等、地域で活動する担い手が高齢化し、介護支援サポーターについては、民生委員が兼ねている状況である。今後、若手の後継者育成について、推進していきたい。
18	△	高齢化や認知症により、金銭管理や契約等に支障がある方に対し、成年後見制度の周知等をもっと実施し、トラブルから回避できるよう努めていきたい。
19	×	相談内容に応じて、担当窓口が異なり、住民には非常に便利が悪い。相談窓口を一元化し、住民サービスに努めたい。